



守ります 人と自然とこの地球

気象庁 沖縄気象台

●こんな仕事をしています

仕事内容 気象庁は、大雨や暴風、地震と津波、火山噴火などの自然現象を常時監視するとともに、気象、地震、津波、火山活動などに関する情報を発表しています。気象庁が発表する情報は、自然災害から国民の生命・財産を守るための防災気象情報のほか、交通の安全を支援する交通安全情報、農業、電力、観光など各種産業活動を支援する産業情報、国民の日常生活に役立つ生活情報、さらには人類の将来に警鐘を鳴らす地球温暖化など地球環境に関する情報などがあり、多方面で多様な役割を果たしています。

組織 気象庁は国土交通省の外局です。中枢機関として、東京に気象庁（本庁）があり、地方支分部局の一つとして那覇市に沖縄気象台があります。沖縄気象台の下部組織として、宮古島・石垣島・南大東島に地方気象台、那覇空港に測候所があり、沖縄管内の職員数は、約220名です。

●採用実績

試験区分	H31年度	R2年度	R3年度
行政	1名(1)	1名(0)	4名(0)
物理	78名(17)	62名(12)	65(7)
電気・電子・情報	2名(0)	1名(0)	8名(0)
化学	1名(0)	5名(2)	1名(0)

対象試験区分 <一般職試験>

行政
物理、電気・電子・情報、化学、土木

※技術系は全国採用、事務系は沖縄管内採用
※()は女性の内数



●採用されたら

配属先

技術系区分は、全国の気象官署に配属されます。行政区分は基本的に沖縄管内への配属となります。

業務内容

技術区分の採用者
⇒観測予報業務、地震火山業務、情報通信業務に従事
行政区分の採用者
⇒総務部門の総務、人事、福利厚生、会計事務に従事

研修

採用直後に人事院主催の新採用職員研修を受講します。その後、職場内研修を経て気象大学校（千葉県柏市）の技術研修を受講します。

異動

概ね3年を目処に沖縄気象台及び県内各出先機関を基本として異動します。その他、気象庁本庁又は全国の気象官署へ異動することもあります。

●職場の魅力PR

私たちは、台風や集中豪雨、地震や津波等に対する防災気象情報や天気予報等が、日々の生活に欠くことのできない情報であり、発信する情報が国民生活に大きく影響を及ぼすことを常に意識し、緊張感と責任感をもって日々業務を行っています。自然災害から国民の安全を守り、地球環境の保全に寄与し、生活や産業を支える「気象のプロフェッショナル集団」それが気象庁です。正確な情報を提供するために、職員がチームで調査研究も行っており、若手職員は学生時代に学んだ知識を発揮する場があり、その研究成果を発表する機会もあります。日々の業務もチームで交代制により行われるなど緊張感の中にもアットホームな雰囲気のある職場です。

●先輩からのメッセージ

私は、学生時代から工学・自然科学分野が好きで、その分野に関連した仕事に就きたいと思い気象庁を志望しました。

現在は、沖縄気象台予報課で勤務管理を担いながら、観測や予報の現業作業を担当したりしています。現業作業では、気象台が発表する予報や警報・注意報など防災気象情報が防災機関などへ正常に伝達されているかの確認、機器障害時のバックアップ対応、防災機関からの電話対応など様々です。大雨・台風などの顕著な現象発生時は、警報発表や防災機関との対応などで多忙になりますが、国民の「生命・財産」を守る防災業務に携わっていると実感できるので、職員全員が誇りを持って仕事をしています。わからないことがあっても職場の先輩が丁寧に教えてくれますし、悩むより誰かに相談して一緒に解決しようという雰囲気があります。

気象庁は観測や予報だけではなく、地震火山、海洋、航空、情報通信など様々な業務があります。気象大学校での研修や管区研修が充実しているので、未経験でも業務に必要なスキルを習得することができ、気象の「プロフェッショナル」を目指せます。気象庁で皆さんと一緒に働ける日を心より願っています。

(令和3年1月採用 一般職物理 D.K.)

ある日(昼勤務)のスケジュール

08:30 出勤、朝の現業業務引継ぎに参加
09:00 メールなどの確認
10:00 勤務管理業務・資料作成
12:00 昼食
13:00 文書管理業務 資料作成
14:30 昼の会報(今後の天気予報の推移)に参加
17:15 メールの確認など残務処理を行い退勤

●連絡先

〒900-8517 沖縄県那覇市樋川1-15-15(那覇第一地方合同庁舎)
沖縄気象台総務課人事係 TEL:098-833-4281(内線515又は516)
ホームページURL <http://www.jma-net.go.jp/okinawa/>